

〔創造部門〕

1. 氏名 石井 岳龍 (映画監督)
2. 年齢 68歳 ※R7.10.15現在
3. 住所 東京都(福岡市出身)



©Naoto Sugimoto

【経歴及び選考理由】

昭和51年、日本大学芸術学部入学直後に8mm映画デビュー作「高校大パニック」で注目され、「狂い咲きサンダーロード」(昭和55年)でインディーズ界の旗手となる。「逆噴射家族」(昭和59年)により、第8回サルソ国際映画祭(イタリア)でグランプリを受賞し、「エンジェル・ダスト」(平成6年)によりバーミング国際映画祭(イギリス)でグランプリ受賞するなど、国際的にも高い評価を受ける。

短編映画製作やミュージックビデオ制作も多数。

全編福岡ロケの「水の中の八月」(平成7年)でも高い評価を得た。

福岡の小説家である夢野久作の小説を映画化した「ユメノ銀河」(平成9年)は、ベルリン国際映画祭パノラマ部門に招待され、オスロ南国際映画祭でグランプリを受賞した。

平成22年に芸名を聴互から岳龍に改名し、「生きてるものはいないのか」(平成24年)、「シャニダールの花」(平成25年)など話題作を発表している。

平成18年から令和5年まで神戸芸術工科大学で教授として教鞭をとる。著書「映画創作と自分革命 映画創作をめぐる」により、映画入門から自身の映画創作術まで、映画の持つ根源的意義と実践術をまとめ、広く学生や映画にかかわる人材育成にも熱心に取り組む。

小説家安部公房本人より直接映画化を託された「箱男」(令和6年)を安部公房生誕100年の令和6年に発表し、第74回ベルリン国際映画祭で特別招待上映された。また、本作品が評価され、令和6年度(第75回)芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。

このように氏は、福岡ゆかりの映画をはじめとした映画作品により、国内外で評価されるとともに、大学等で後進の育成に取り組むなど、福岡県にとどまらず、日本映画界の向上・発展に貢献している。

【主な映画作品】

- 高校大パニック(昭和51年)
- 狂い咲きサンダーロード(昭和55年)
- 爆裂都市(昭和57年)
- 逆噴射家族(昭和59年)
- エンジェル・ダスト(平成6年)
- 水の中の八月(平成7年)
- ユメノ銀河(平成9年)
- 五条霊戦記 GOJOE(平成12年)
- ELECTRIC DRAGON 80000V(平成13年)
- 生きてるものはいないのか(平成24年)
- シャニダールの花(平成25年)
- 蜜のあわれ(平成28年)
- パンク侍、斬られて候(平成30年)
- 箱男(令和6年)



水の中の八月(平成7年)



箱男(令和6年)

【受賞歴】

- 第8回サルソ国際映画祭グランプリ(昭和59年)「逆噴射家族」
- バーミング国際映画祭グランプリ(平成6年)「エンジェル・ダスト」
- オスロ南国際映画祭グランプリ(平成9年)「ユメノ銀河」
- 芸術選奨文部科学大臣賞(令和7年)

(参考)創造部門：個性的・創造的な文化活動を行い、優れた業績を残し、県民文化の向上・発展に貢献したもの